

広告特集 企画・制作 朝日新聞社メディア事業本部



著者による朗読動画がご覧いただけます



今回ご協力いただいた、日本の季節を巡る「にっぽん丸」

クルーズ客船「にっぽん丸」は「大人のための豊かな国」をテーマに、美食、おもてなし、楽しみを追求した楽しい海の上の暮らしを提案します。



https://www.nipponmaru.jp

書いてみたかった
密室状態の船上での物語
恩田陸(以下、恩田) ずっと前から、密室状態の場所で登場人物が会話をしているだけのシチュエーションで構成された長編を書きたいと思っていました。それも一度は船上の物語に挑戦してみようかな、と。旅には最初と終わりがあるので、空間に加えて期間もはっきりさせられます。船旅という物語を乗せやすい舞台なんです。

とするとみんな挫折する呪われた原作が中心にある小説という「鈍色幻視行」の着想が生まれました。その原作という「夜果つるところ」という題名で、飯合梓という小説家が書いたことになっています。それも作品内で断片的に触れるのではなく、実際に書いてしまおうと思いつきました。着想の元になっているのが「遊廓の少年」なので、「夜果つるところ」も遊廓の小説なんです。飯合梓の作品ですから、文体も自分と意識して変えています。たとえば「！」「？」を使わないというように。

「鈍色幻視行」の前半は飯合梓が失踪した謎についての物語という色合いが強いですが、後半は登場人物たちが自分の「夜果つるところ」読解を話すことが中心になります。恩田 私、創作者がどうやってものを作っているかというところに興味を強く惹かれます。だから作品を深読みすることでそれを見つけたという話になるんじゃないかな、と。読書という行為も、たとえば批評という形のものを作ることには可能ですが、創造性とは何かという話になったな、と後から思いました。

「鈍色幻視行」の前半は飯合梓が失踪した謎についての物語という色合いが強いですが、後半は登場人物たちが自分の「夜果つるところ」読解を話すことが中心になります。恩田 私、創作者がどうやってものを作っているかというところに興味を強く惹かれます。だから作品を深読みすることでそれを見つけたという話になるんじゃないかな、と。読書という行為も、たとえば批評という形のものを作ることには可能ですが、創造性とは何かという話になったな、と後から思いました。

『鈍色幻視行』
本日発売
定価：2,420円(税込)
集英社

『夜果つるところ』
6月26日発売
定価：1,980円(税込)
集英社

作家 恩田陸

おんだ・りく/1964年、宮城県生まれ。92年に『六番目の小夜子』でデビュー。2005年『夜のピクニック』で吉川英治文学新人賞と本屋大賞、06年『ユージュニア』で日本推理作家协会賞、07年『中庭の出来事』で山本周五郎賞、17年『蜜蜂と透笛』で直木賞と二度目の本屋大賞をそれぞれ受賞。ミステリ、ホラー、SFなど、さまざまなジャンルの小説を発表し続けている。

謎は溶け合って
鈍色に漂う。

私たちはずっと、あの本の呪いの中にいる。
15年の連載期間を経て、書籍化が待たれていた恩田陸さんのミステリ長編『鈍色幻視行』が、本日集英社から発売された。クルーズ客船を舞台にした物語にちなみ、商船三井客船が運航する「にっぽん丸」にご協力いただき、その船内で恩田さんに話を聞いた。

聞き手 杉江松恋



恩田陸

本日発売

鈍色
幻視行



読書メーター
読みたい本ランキング
1位

『鈍色幻視行』の核となる作中作。
実際の本になって刊行!!
6月26日発売
夜果つるところ
謎多き作家・飯合梓が選んだ唯一の小説。山間にある遊廓「陸月荘」で暮らす“私”の語りで描く、美しくも惨烈な幻想譚。



集英社の本
イラスト/いとうあつき
●表示価格は消費税10%を含んだ定価です。●一部地域で発売日が異なる場合があります。
◎お求めはお近くの書店、または集英社HPから https://www.shueisha.co.jp